

第2回 佐賀県総合運動場等整備基本計画検討委員会 議事要旨

▶開催日時

平成28年7月11日(月) 13:30～16:30

▶開催場所

佐賀県庁特別会議室 A

▶出席者

委員：石橋委員(NPO 法人佐賀県放課後児童クラブ連絡会 理事長)、
岸川委員(鳥栖市スポーツ推進委員)、
小早川委員(久光製薬(株) 久光製薬スプリングス 副部長)、
今委員(フリーランス・プランナー)、
坂元委員(佐賀大学文化教育学部 教授)、
竹原委員((株)サガン・ドリームス 代表取締役社長)、
馬場委員((株)オープン・エー 代表取締役社長)、
原田委員(早稲田大学スポーツ科学学術院 教授)、
東島委員((公財)佐賀県体育協会 理事長)、
藤井委員((一社)佐賀県障がい者スポーツ協会 指導員)

事務局：白井文化・スポーツ交流局長、田中副局長、原スポーツ課長、スポーツ課担当

関係課：政策課、消防防災課、財政課、さが創生推進課、

国民体育大会・全国障害者スポーツ大会準備室、県民協働課、都市計画課、

下水道課、建築住宅課施設整備室、河川砂防課、佐賀土木事務所、保健体育課

▶内容

- 1 開会
- 2 あいさつ(文化・スポーツ交流局長)
- 3 説明事項
 - (1) 整備基本計画策定までの議論の流れについて
 - ・事務局より資料1の説明。
 - ・委員からの意見・質問なし。
 - (2) 第1回委員会議事要旨と対応について
 - ・事務局より資料2の説明。
 - ・委員からの意見・質問なし。
 - (3) 整備基本計画に係る基本的な考え方

- ・事務局より資料3の説明。
- ・今委員より、『する』『観る』『支える』の『支える』のところは、『支える』『育てる』とあるので、『関わる』というスポーツへの関与の仕方の範囲を少し広げて、『する』『観る』そして『支える』『育てる』『関わる』という3方向からの視点としてもいいのではないかという提案が1点。『する』スポーツだけではなく、『観る』スポーツにも対応したという表現があるが、『する』スポーツのついでに『観る』スポーツの施設を作るという風に見えてしまうので、表現を見直した方がよいと思うという意見が1点あり。

4 議事事項

(1) 施設整備の方向性について

- ・事務局より資料4の説明。
- ・主な意見等については次のとおり

【坂元委員長】

- ・事務局の説明に加え、機能のこと、規模のこと、費用のこと、種目のことについて、どこまで具体性を持たせていくかは、これからのやりとりの中で決めていきたいと思っている。
- ・今回の会議では、施設整備の方向性を決めていくことになるので、委員のみなさんに方向性について、より具体的な意見をいただきたいと考えている。
- ・前回の会議では、「レガシー」という言葉も出てきている。こういったものを残すか、あるいは集客や整備費用も含めて、皆様の専門的な意見をいただきたい。

【原田委員】

- ・最初に、戦後のスポーツ振興の大きな流れで話をさせていただくと、1962年にスポーツ振興法ができた。これは東京オリンピックのために作った法律だが、その立法精神というのはデベロップメントのスポーツ、すなわちスポーツの振興そのものだった。
- ・その後、2012年にスポーツ基本法ができたが、この法律は立法精神が変わって、デベロップメントのスポーツに加え、スポーツを通して何かを成し遂げるといふ、より広い明確な方向性が示された。その後、2012年から2017年のスパンのスポーツ基本計画が作られ、その中でスポーツツーリズムや、様々なスポーツを使って日本をどうするという議論が行われた。
- ・今ここで検討している施設整備の方向性は、その流れに沿ったいい方向だと思っている。
- ・国体は、一巡目を終わって今二巡目に入っているが、その一巡目に作った施設というのは、デベロップメント・オブ・スポーツの施設である。国体をやるためということ

で総合運動場が全国各地にでき、スポーツの振興にとってはある一定の貢献はした。

- ・今問題になっているのは、Ｊリーグなどの見せるスポーツをやる場合、陸上競技場では難しいということである。みんな新スタジアム構想を持ちながらやっている。
- ・佐賀県の場合は、国体のためにというプロダクトアウトからマーケットイン、すなわちマーケットが寄ってくるような施設づくりをしなければならない。
- ・このことは、前回の会議の中で議論し、共通認識を持ったと思う。具体的にどういうものを作っていくかは、これから議論を積み上げていく必要があると思っている。
- ・明日、新国立の跡地利用検討ワーキングチームに出席するが、スポーツ施設を作った後の管理をどうするかは３つしかないと考えている。
 - 1つは、施工主体であるＪＳＣ、日本スポーツ振興センターが直営でやる。
 - 2つ目は、ＪＳＣと東京都と一緒に第三セクターのような新しい組織を作るか、あるいは東京都がスポーツコミッションをつくって運営するか。
 - 3つ目は、運営権を売り払うコンセッション方式でするかになる。
- ・佐賀県の施設も、同様に作った後は、誰が運営をするのかを考えておく必要がある。コンストラクション・マネジメントではなく、プロジェクト・マネジメントで、作る時点から誰が使うのかということを考えながらやらないと、できたはいいが使いづらいという話になってしまう。これはアリーナでも、スタジアムでも、ぜひ検討をいただきたいと思っている。
- ・私は国体の開会式はそんなに重きを置く必要はないと思っている。具体的なアイデアとしては、メインスタジアムをしっかり作り、バックスタンドは仮設にして、国体が終わった後に仮設を取り払って、新たにフットボールの専用場にしていっていいのではないかと考えている。
- ・それでは陸上競技はどうするのだとなりますが、陸上競技はサブトラックをさらに充実させて、そこを立派な、高校生が使っても遜色のない、全県で陸上競技大会ができるような施設にすればいいと思っている。
- ・メインスタジアムは、国体後にフットボール場にし、補助競技場を第１種公認が取得できるような施設にすることが、何となく新しい国体のあり方という感じがしている。
- ・実際に、陸上の世界大会を佐賀県ではやらないと思うので、メイン競技場と補助競技場が必要かどうかということも議論していただけるとありがたいなと思っている。

【坂元委員長】

- ・サブトラックを格上げしていくというアイデアについて、東島委員いかがですか。

【東島委員】

- ・国体開催に必要となる１種の陸上競技場には必ず補助競技場を備えておかなければならないので、原田先生が言われたアイデアが、すぐ当てはまるかという問題もある。

そのため、それではどうするかについて話をしていかなければならないと思います。

【坂元委員長】

- ・今委員、いかがですか。

【今委員】

- ・そのとおりだと思います。
- ・その前に、方向性の8つの項目はそのまま並べると強弱がなくなってしまう。これまでの話の流れだと、最初にくるのは多分ビジョンだと思う。
- ・そうなると、土台になるのは2番目の柱に上がっている『県有スポーツ施設としてのあるべき機能・設備を備えた施設整備』となり、競技力強化支援やスポーツツーリズム、多目的利用、防災拠点の柱のような項目は施設の付帯価値となり、それに付随してアクセスや環境配慮のような環境要件という部分に区分できると考えている。
- ・土台の部分が一つの形にならない限り、何を言っても始まらないと感じている。
- ・柱の1番目である『スポーツを楽しむ環境づくりのための施設整備』は、先ほど申し上げたように、物理的には「観る」スポーツのための施設としての機能整備が前提で、そこから派生して「する」スポーツのための施設としても応用活用できるという順番が理にかなっていて、「する」スポーツのための施設を作って、「観る」スポーツにも順応しようというのは無理がある気がする。これは全国に余るほどケースがある。
- ・先ほど、原田先生がおっしゃったように、国体後にはサッカー、ラグビー専用にしたほうがいい気がします。「観る」スポーツの施設として考えるのであれば、それが正論になり、そこから客席規模の大きさを求めることになる。体育館でいくとアリーナ面が大きくなります。アリーナ面が大きくなるということは、競技団体が求めている全国大会クラスのスケールに必然的になります。理屈で考えていくと、結果的に「観る」スポーツのための整備を具体的に考えるのが近道かと思います。

【坂元委員長】

- ・ありがとうございます。今委員には資料を用意してもらっておりますので、後ほど時間を見つけて説明していただきたいと思います。
- ・「観る」スポーツ施設の整備があって、それに「する」という機能を附帯していくという意見がありましたが、これはあくまでも新しい施設をつくるという観点に立った場合です。それぞれのお立場あるかと思います。それよりもまず県民の健康のことを考える必要があるのではないかという観点から意見いかがですか。

【藤井委員】

- ・私は「する」スポーツの立場で意見を述べさせていただきます。私は障害者スポーツ

に関わっており、既存の施設を改修するという前提で、選手の皆さんや関係の方に意見を伺ってきました。

- ・その中で陸上のトラックについてです。施設の外側の話が議論をされておりますが、トラックがどうなるかという意見がありました。
- ・競技者にとっては記録の出やすい固いトラックがいいと言われていました。ただし、全国大会に出場するような一般の選手にとっては、余り固いと体に負担が大きくなるようです。
- ・また、車椅子のレースをする選手にとっては、タイヤのゴムの面が当たるので、柔らかすぎるトラックは走りにくいという意見もありました。
- ・車椅子の選手の投てき競技というのがありますが、その方たちは特別な椅子を使って投げたりします。それを固定する器具がありますが、それが備わっている競技場は全国でもほとんどないようです。今からはそういう器具を常備することも必要ではないかと思えます。鳥取県でパラ陸上の日本選手権があった時、全国で初めてその器具をつけているという宣伝をしていました。
- ・プールですが、プールの利用が少なくなった冬場にスケートリンクにしたりすることはよく聞きます。あとは、床を可動床にしてもらえれば、半面は練習に使い、もう半面は子ども用プールにするなど色々な使い方ができるようになると思えます。
- ・また、体育館などは弱視の方のことなどを考えて全体的な色合いや明るさを考える必要があるようです。

【坂元委員長】

- ・ありがとうございます。
- ・障害者スポーツに関し、お気づきの点があれば、また提案をいただければと思います。

【馬場委員】

- ・私は建築や都市空間が専門なので、その方向から意見を言いたいと思います。
- ・総合運動場や総合体育館のあるエリアの都市空間における大きい特徴は、駅の北の方に競技場やプール、武道場などのスポーツに関する複合的な施設が1カ所に集中しているところであり、そこに都市空間としての魅力を非常に感じています。そうなので、よりあのエリアにスポーツに関する施設を集中させることによって、より求心力を増すという戦略が重要と考えています。要するに、スポーツと言え、あのエリアの風景がぱっと県民に浮かぶぐらいの集中度を高めていくべきだと思います。
- ・幸いにも、陸上、サッカー、水泳、それからアリーナができたとするとバレー、隣に武道場まであって、日本における人気スポーツのほとんどがあそこの1カ所に集中させることができます。それだけの条件が偶然にも揃っているところは、日本全国を見てもあんまりないのではないかなというようなことに気がつきました。

- ・想像してください。あそこをばらばらの施設が並んでいるというふうにイメージするのではなくて、緑の大きな公園の中にあらゆるスポーツの施設がぽんぽんぽんぽんと施設が点在しているような、そういうイメージを持った瞬間に、県民にとってはスポーツの強いアイコンとしてあのエリア一帯がアピールできるのではないかと思います。
- ・よって、建物単体だけではなくて、その周り、要するに余白の部分のデザインが実はすごく重要なのではないかと考えています。複数のスポーツ施設がその余白を芝生や木々やブリッジ、キャノピーみたいなもので繋いで一つの大きな風景として成立させる、そういう目線を持つことが都市空間という意味では一つ重要なのではないかなと思っています。
- ・そうすると、道路を隔てた向かい側に武道場がありますので、そこはトレセン的な空間として整備することができるだろうし、その総合性をいかに持てるかが重要になります。
- ・更に求心性を持つために、コンセッション方式はすごく賛成です。行政があれだけ重たい空間をずっと運営し続けることは、無理があるのではないかと思います。民間へ、それから商業へ、もう少し空間を開放していくことによって、日常的にあの空間でスポーツに関するあらゆることが行われているという経営感覚みたいなものが必要になるかと思っています。その場合、建物一個一個で経営を成り立たせようとするとは非常に厳しくなるので、エリア全体としてその経営を何とかしようとする、それなりのマスが稼げるので、そういう方法がいいのではないかと考えています。
- ・図面を見ていくと、水泳場東側の駐車場であれば七、八千人規模のアリーナなら多分すっぽり入ります。ただ、その駐車場が埋まってしまうと車をどう停めるんだということになりますので、第2補助競技場を駐車場にすると1,000台ぐらいいは入るので、いけるのではないかと考えています。敷地をしっかりと見つめなおし、その中のパズルを上手に解きながら、あらゆるスポーツが集積する佐賀県におけるスポーツの圧倒的な求心力を持った中心みたいなものを一体としてデザインしていくような作業が必要かと思っています。

【坂元委員長】

- ・ありがとうございました。スポーツパーク、スポーツのゾーンとしてのイメージづけなど、いい提案がなされました。
- ・「観る」というスポーツの提案もなされていますが、今はプロスポーツにおいてお客様を競技以外でいかに滞留させるかということの研究が進んでおります。そういう視点で、竹原さん、小早川さん、東島さんの方で、例えば好事例として、こういう施設、こういう仕掛け、こういうイベントなど知っていられればぜひ紹介いただけないかなと思っています。

【東島委員】

- ・ 前回も話をしましたが、私の方にバレー、バスケット、卓球、柔道、体操、空手といった競技団体からは、競技を普及するにあたって、全国的な大会が開催できるような施設整備の要望が出ています。施設が出来、大会を開催することによって、そのスポーツの経営拡大といいますか、普及につながるという考えをお持ちです。
- ・ それで、今の総合体育館だとどうしても 2,000 人しか入らないので、Vリーグであれば 3,500 席、Bリーグになると 5,000 席は必要だという話が出ています。今後、アリーナを検討するのであれば、やっぱりそれぐらいは必要と思っています。
- ・ それと、先ほど馬場委員の意見にあったのですが、大会が重なると車を駐車することができなくなります。確かに、あそこは色々なスポーツ施設があって非常に利便性が高いのですが、駐車場をある程度考える必要があります。
- ・ バスを出すからいいですではなく、選手は道具を持って来ますので、出来るだけ近いところに行きたいという気持ちがあるので、施設を検討するに当たっては、駐車場をどうするかについても十分考えてもらいたいと思っています。

【坂元委員長】

- ・ ありがとうございます。他いかがですか。

【小早川委員】

- ・ 先ほど委員長からありました好事例についてです。バレーボールはサッカーのように競技場で何かを食べながら観るとかという文化がありませんが、そういった中で岡山は地元のを体育館の周りで販売したり、歌とか応援歌を流すなど、一種のお祭りみたいな形でやっているところがあります。我々も同じような取り組みをしたいのですが、総合体育館の周りではそのようなスペースが確保できないということもあって、なかなか難しいです。複合的な施設になるのであれば、他県からのお客さんもたくさんお越しになるので、佐賀県をPRするいい機会になると思います。
- ・ あとは、先ほどから話がある、「観る」スポーツというところなのですが、結局、誘致する大会のクラスによって変わってきます。Vリーグであれば 3,500 席でいいのですが、国際大会をやろうと思うとそれ以上になります。なので、何の試合を開催するのかということをしっかり定義したほうがいいと思いました。
- ・ また、私は国体も含めて、育てるという意味では合宿の施設が必要だと思っています。アマチュアスポーツを鍛えていくためには、佐賀県のチームとばかりやっても全く強くなりません。私どもの久光製薬スプリングスも、先日、ロシアのナショナルチームを呼んだのですが、自分のところの体育館では泊まらせることが難しかったです。そういう国を代表するチームになれば費用も出てくるのかもしれませんが、県の中で強化しようと思うと、ホテルに泊ませたりとかということも難しいので、合宿がで

きるような施設も少し用意して、いろんな競技の方が使ってもらえればいいのではないかと思います。

【坂元委員長】

- ・宿泊できるような複合的な施設ということですか？

【小早川委員】

- ・そうです。整備の方向性の柱にもある「スポーツツーリズムを推進できる施設整備」というのは、多分、トップレベルの選手のキャンプとかをイメージされていると思いますが、そういう人たちはホテルに泊まると思います。それとは違い、県内のチームを強化していくに当たっては、県外から強いチームを連れてくる必要があって、特にアマチュアはそういう費用がすごく少ないので、合宿にも対応できる施設があるといいなということです。

【坂元委員長】

- ・ありがとうございます。
- ・委員のみなさんのご意見や競技団体の意見をもとに、プールの東側あたりに「観る」スポーツに焦点を当てたアリーナが新設されるべきという提案をしようとしています。小早川委員のイメージとして、どういう施設であれば、久光製薬のチームが佐賀に拠点を移そうということになりますか。具体的に言ってもらったほうがわかりやすいかなという気がします。期待を込めてお願いします。

【小早川委員】

- ・久光の専有施設を作るという話とは分けて考えるべきかと思いますが、まず、建物は建てたら後で変えられないので、例えば、国際大会をやるときは、バレーボールは必ずサブアリーナがないといけないという規定があって、そこを無視してつくと何の誘致もできなくなります。同じことがVリーグの試合を開催するにしてもありますので、そういったことを先に考えるべきかと考えています。

【坂元委員長】

- ・ありがとうございます。久光製薬が総合体育館で試合をする時は廊下でウォーミングアップしているみたいです。そういう現状もお知りおきいただいたらと思います。
- ・次、どうぞ。

【原田委員】

- ・前も言ったと思うのですが、アメリカのアナハイム市はバレーボール協会と提携を結

んで、アメリカ代表の試合はアナハイム市でやり、バレーボールシティーとしてやっています。そういうやり方も一つの方向性としてはありかと感じています。

- ・先ほど発言した陸上ですが、我々は陸上競技って陸上競技場でやらなければいけないというイメージが強いのです。ところが、ストリート陸上なんてIWFの公認競技になっているので、トラックだけあればどこでもできてしまいます。銀座でもできるし、大手町でもできるという時代に来ているので、陸上競技場と補助競技場がセットになっていなければいけないということを概念から外していったほうがいいのかと思います。
- ・2つ陸上競技場があつて、じゃ、どんな大会が年に何回来て、何人が来て、どれだけの経済効果があるのか。世界陸上なんて20年に一回来ればいいぐらいのもんです。陸上の方には申し訳ないのですが、そういう現実的なことを考えながらやっていくことも大事だと思います。
- ・先ほどの馬場委員の駐車場とアリーナの問題の話がありましたが、確か国際試合を開催するために必要な空間が30メートル必要になります。30メートルの空間の上に駐車場をつくるのか、もっと自由な発想で考えていったほうがいいのかと思います。
- ・今のヨーロッパのサッカースタジアムは、当たり前前の発想で商業施設の横に作っていると、ショッピングセンターの上にサッカースタジアムを作るとかを平気でされています。そういった先進的な事例を参考に、どうやって稼ぐのかななどを十分に考えて佐賀でつくられたらどうかと思います。

【坂元委員長】

- ・ありがとうございます。
- ・竹原委員、サッカー専用スタジアムはまだ1桁ですよ。

【竹原委員】

- ・そうです。

【坂元委員長】

- ・それも含めて、今、スタジアムはいかがですか。

【竹原委員】

- ・スタジアムというよりも、資料4にある目指す姿の中に、スポーツ産業の育成みたいなもの入れ、県が取り組んでいただけたらスポーツで稼いだ収益をスポーツに再投資して循環型のスポーツをすることも可能と思います。
- ・「観る」「する」「支える」を考えた時に、障害者スポーツはまさしく「する」だけではできません。支える方がいて、観る人がいて、する人がいます。収益を上げて、それ

をスポーツ事業に回していく循環型のビジネスというんですかね、ビジネスと言ったら体育というものだけではなく、スポーツも必要だと思っています。体育とスポーツは、私たちプロ競技をやっているものは分けて考えています。スポーツ産業というところがあるので、久光製薬さんが簡単に鳥栖には来ないとは思っています。

- ・選手は鳥栖にも来ないのです。だから、神戸にいるのは、別にアリーナの問題だけではなく、選手をどうやるかというところになります。長いスパンを考え、選手育成に加え、ビジネスのことも考えていく必要があります。
- ・佐賀県としてスポーツを産業の一つの柱として考えていただきたいと思います。
- ・アリーナとしてあるべきものがどうだとか、これからのITがどう加わってスポーツを県民みんなが楽しめるかとか、健康にどう参加できるかを含めて、一体型の成長ビジネスとして捉えてもらったら、私たちももっと積極的に言っていけると思います。経産省とスポーツ庁がまさしく6月にそのようなものを発表しています。佐賀スタイルとして、スポーツの基幹産業化ということを考えていただき、オリンピック、そして国体とつなげていけば、長いスパンで成長戦略が描けないかなというふうに思います。そうなれば、プロスポーツをやっている者としては、鳥栖、佐賀県というのは魅力あるまちになると思います。

【坂元委員長】

- ・PPPとか考えることができますか？

【竹原委員】

- ・民間のお金を利用してとか、指定管理者がそのままするとか、さまざまな資金の流用方法なので、お金をどう回していくかという話はちょっと議論が必要かと思っています。

【坂元委員長】

- ・今、お客さんたちを楽しませるために、競技のことだけではなくて、いろいろな仕掛けをJリーグあたりではなされているのではないですか。そのあたりは何か際立ったことがあったら、ぜひ紹介いただきたいのですが。

【竹原委員】

- ・一日中滞在できるというキーワードもあるのですが、実はそれではファンが増えないというのが現実にあって、やはり来ている人たちをどう熱狂させるかということに、今年からサガン鳥栖も方針を変えて力を入れています。ちょっと皆さんには見えにくいところですが、今、色々な仕掛けをやっています。

【坂元委員長】

- ・簡単にはやはり伸びていかないですか。

【竹原委員】

- ・はい。
- ・例を出すと、あるドリンクメーカーさんが全国5カ所でロンドンチャレンジというキックターゲットのイベントをしたんですが、サッカーを観る人が6割、サッカーを観ない人が4割来場され、日本で一番人が集まりました。
- ・スポーツを楽しむということは、佐賀県は受け入れやすいかと考えています。コンテンツがないといえば無いので、遊ぶことがスポーツというものになっているのかもしれません。

【坂元委員長】

- ・白井さん。県のほうでもプロとの連携事業がスタートしているようですが、そのあたりはいかがですか。サポートが中心になりますか、それともビジネス、あるいは前回、原田委員からキーワードとして出てきたプロフィットであるとか、スケールとか、そういったようなところも取り組みとしてはなされているのでしょうか。

【白井局長】

- ・我々の考え方としては、同じような方向性を持っています。例えばキャンプ誘致をしながら、そこにいかに付加価値を見つけられるかとか、あるいは、今おっしゃったように、1つのスポーツだけではなく、そこに複合させていくことで県民あるいは観客がいかに楽しむものかとか、そういったことは目指していきたいなと思っています。そういうことは議会の中でも議論が始まっているという感じです。

【坂元委員長】

- ・ありがとうございます。
- ・石橋さん、岸川さん、いかがですか。お二方の視線も反映したほうが、かなりいい施設になるという気がします。スポーツを楽しむという視点から、いかがですかね。

【岸川委員】

- ・先ほど馬場委員さんが言われた、環境、木々と、そこに複合型、集合したこういうスポーツ施設というのは、想像してすごくわくわくはしました。もし、そうなるのであれば、色々な方が散歩とかも含めて、そこに遊びに行けるとかになると素晴らしいと思います。

【坂元委員長】

- ・石橋さん、いかがでしょうか。

【石橋委員】

- ・今からの財政を考えると、大きなものをつくって、どうやってランニングコストを生み出すかと考えると、県民の一人としては、本当に大丈夫だろうかと考えています。
- ・また、PFI方式にしても、お金がかかってくることになるので、そういうことを考えたときに、もちろん、ビジネスモデルというのはとても大事だとは思っていますが、県民としては、やっぱり安心して、何か私たちの誇りになるというか、やはり県民一人一人を呼びたいとか、そういう主体性を持っていただきたいです。県の計画だからといって建てると、それをねだった人は誰かということになってしまいます。私はやっぱりこの計画の中に、その近くに住む方たち、または佐賀県民に意見を聞いて、若い人たちがどういうものを国体後に求めているのかを考えた方がいいと思います。
- ・私は色々な計画に関わっているので、皆さんは安心して暮らしていきたいという意見が多いことを知っています。安心して暮らし続けたい、それは老後も含め、子供を産むことも含め、その安心感と、このスポーツ施設がどのようにリンクしていくのか、そこはきちんと議論しながら伝えていかなければ、誰かがつくった箱物になってしまうと思います。私たちが私たちの意見を反映してつくったものだという、生きた計画にしたいなと思っています。

【坂元委員長】

- ・それでは、少し休憩を入れて、後半は今委員に「観る」スポーツに関する資料を用意してもらっていますので、その説明から入っていきたいと思います。

<休 憩>

【坂元委員長】

- ・それでは、後半の議論に入っていきたいと思います。
- ・引き続き、施設整備の方向性について意見を伺っていきたいと思います。
- ・今委員さんに資料を用意していただいています。説明をお願いします。

【今委員】

- ・今回の検討委員会で意見をいただきたいこととして、よかった施設のことを聞かれますが、「ありません」と答えています。人を呼ぶための仕掛けをしている施設はありませんが、ハードとしていい施設というのはないです。ただし、それを打開するために、プロスポーツチームは、死ぬほど努力しています。例えば、アリーナでいうと、沖縄

のバスケットボールの琉球ゴールデンキングスというチームは、楽しませるといことが第一義にあって、観客を楽しませるためにはどうするかを考えています。

- ・沖縄県民の出生率は全国1位、若いお父さん、お母さんがいっぱいいます。でも、小さい子供がいたら試合を見に来れない。じゃ、託児所を作ろう、単純にそういう発想です。あと、体育館の中では本来お酒は飲めなかったのですが、飲めるようにしてもらい、そこでビールを売るだけじゃなく、カクテルまで売っています。
- ・そういった観客の喜ぶことを1個1個積み上げて、そこに行けば何かがあるぞというのが人を呼ぶ仕掛けになります。あそこに行けば何々がある。他で食べるよりもおいしいものがあるとか。実は試合の中身というのは第一義ではないのです。
- ・ひとつすばらしい施設を紹介すると、アメリカのインディアナポリスに、カンセコフィールドハウスという、NBAのインディアナペイサーズのホームアリーナがあります。ここは、外観デザインが非常にノストラジックなデザインになっていて、そこで働く方々は、ほとんど全員がシニアです。60代以上のシニアが、いわゆる昔のファッションでお客様をもてなす仕事をしています。こういうカラーを、その施設のカラーとして出しています。こういうことも仕掛けであって、結局は人の努力に頼っていることになります。あまり施設は関わっておりません。
- ・先ほど、小早川さんと話しをしたのですが、「観る」スポーツのための施設をどう作るかは、「観る」スポーツとは何だということから論議を始めないといけないと思います。バレーボールで言えば、ワールドカップを持ってくるのか、国内のリーグを持ってくるのか、全日本選手権を持ってくるのかで、天と地ほどの差があります。その合わせ方によったら、機能、整備内容ががらり変わります。
- ・これは、先ほどの陸上競技も一緒に、国際連盟のレギュレーションからルールから色々あります。ただ、それは一つのルールブックであって、それに対してどうやるかは別になります。
- ・施設を考える場合に、普段は高校生しか使わないから、高いレベルに合わせて施設を作るのはもったいないからやめておこうということがありますが、それは逆で、高いレベルの施設を作っておけば、色々なことに対応できるようになります。
- ・ちょっと話は飛びます。アリゾナ州フェニックスに、フェニックス大学スタジアムというスタジアムがあります。ここは、10年でスーパーボウルを2回開催しています。これは、たまたま開催したのではなくて、施設ができる時点で、向こう10年、20年のスパンで、どういう行事をこの施設でやるかという計画まで考えて施設を建設しています。つまり、そこで何かをやる、何をやるということがわかっているならば、そこに持ってくるものが大きければ大きいほど施設の集客装置として高機能を備える必要になり、それは当然お金がかかります。ただ、10年、20年のスパンで、大きな大会などをやっていくことによって観光振興を図るなど、そういう都市戦略にまで結びついているケースがあります。

- ・ よって、単純に高機能の施設整備をすともったいないとか、今使い手がないとか、そういうようなことではありません。
- ・ また、先ほど障害者のお話がありました。これも一つの例ですが、スポーツ施設の車椅子席の数の論議があります。パラリンピックでは1%から1.2%という基準があります。たった1%ですよ。ただ、めちゃくちゃ大きい数字です。日本の施設で該当する施設はありません。全部改修しないと、パラリンピックを開催できません。オリンピックで0.75%、通常のスポーツ競技で0.5%です。0.5%であっても充足する施設はほとんどありません。障害者のためのスポーツを考えたときに、その施設は高機能かという、ほとんどの施設が高機能ではないと言えます。
- ・ だから、そこまで考えた上で、「観る」スポーツのための施設を作ったとしたら、それを「する」スポーツで活用しても使い勝手が抜群にいいです。使うほうも、見るほうも、応援するほうも、抜群にいいことになります。
- ・ それでは資料を見てください。「ベニュー・インスペクションする際のキーポイント」として、『OPERATIONS』『MANAGEMENT』『MARKETING』の3つをあげています。
- ・ 私の仕事はこれまで国際大会の運営責任を背負っていました。例えば、佐賀県立総合体育館で、2024年のオリンピックのための予選大会をやろうとなったとします。そうすると、おおよそ2年ぐらい前に僕のところに話が来て、この会場を1回見て欲しいとなります。僕のほうでは、頭の中にその実施競技のレギュレーションと、マストで守らなきゃいけないことを頭に入れて施設を見ます。この資料はそのときの要項になります。たったこれしかありません。もちろん細かく見たらきりがありません。でも、これが該当するかしないかで大きく変わります。
- ・ 1つ目は『OPERATIONS』、簡単に言えば運営面です。
 - ①-1はハード・スペック要件になります。照明、空調、電気、通信回線等々、施設にあって当たり前という機能がどのぐらいのレベルであるかという確認です。これが実は一番の問題になります。それから諸室機能の配備、常設設備の内容を確認します。これは、実施する大会の規模、レベルによって該当するかどうか判断が違ってきます。次は、意外と知られていませんが、①-2はサービス・ホスピタリティ要件になります。チーム、アスリートに対してのサービス対応する上で、施設としてどこまでの環境が整っていますかという確認です。観客に対してはどうか、メディアに対してはどうか、放送局に対してはどうか、VIPに対してはどうかなど、全部違う目線で確認します。ここが大きく欠けていると、②-3の仮設対応要件というところに影響してきます。この1番目の要件が欠けていると、全部仮設で対応することになります。そうすると、その大会のために莫大な仮設費用が要ります。もともとそういう機能整備がされている施設であれば、ほとんどお金かかりません。ところが、そういう施設はほとんどありません。日本の施設で問題になっているのがこれで、バレーボール等の場合はテレビ局さんが多額のお金を出してくれる環境があるのででき

ているのですが、他の競技ではそうは言っていないようです。

- ・ 2つ目は『MANAGEMENT』です。
 - ②-1の施設管理組織と運営体制要件、先ほど原田先生がおっしゃったことそのもので、施設の管理者が誰なのか、どこまでできるのかということです。これは実際に管理者とお会いをしてお話をする必要があります。話をすれば判断できます。これが欠けていると、僕は行政のしかるべきところに必ず文句を言います。これが解決しない限り開催できませんので。②-2は利用規定・規則要件になります。これは、施設が使わせていただく施設なのか、使っていただく施設なのかという確認です。使わせてくださいと言わないと貸してくれない施設があるのです。逆に、施設側がぜひ使ってくださいと言ったら張り切って使います。そこの確認です。②-3は仮説対応要件で、これは先ほど話をしたとおりです。
- ・ 3つ目は『MARKETING』、ちょっと大げさな言葉を使っていますが、③-1は集客力要件になります。当然のことながら立派な箱があれば人は集まるのかというと、それだけでは集まりません。施設をどう稼働させるかで勝負が決まります。稼働させない限り、ただの箱です。つまり、稼働させることができる人間がそこに必要になります。これは②-1の部分にも該当することになります。なおかつ、どこに施設が建っているかのアクセス要件も関わってきます。このアクセスを考える場合、佐賀市だけで考えるべきか、佐賀県で考えるべきかになります。これは開催するイベントによります。例えば、ビッグネームのコンサートを呼ぶとして、福岡で2回やるところを1回佐賀に持ってくるとなるとします。その時に誰が来ると思いますか。客層はほとんど変わらないです。つまり、全九州だけでなく、全国からどっと来ます。そうしたことを考えて立地を考えていくべきです。そう考えると、立地の仕方も全然違ってきます。これが集客力になってきます。さっきのターゲット論と似ています。それから、③-2は収益性要件、これは完全に精神論とかイメージの問題が最後半分ぐらい占めるものです。例えば、やっぱり埼玉スタジアム2002でサッカーやっている姿ってカッコいいよなと思ったりすることです。単純にそれだけで試合を観た子供が、自分もあそこでぜひ試合したいという気持ちになると思っています。
- ・ このことをベースに僕はふだんインスペクションの業務をしています。施設側がこの要件を満たしてくれていれば、もう喜んで使わせていただきます。この要件を満たすような素晴らしい施設となると、これがイコール「観る」スポーツのための施設となります。
- ・ ちょっと話は飛びます。20年前にNBAのオールスターがあったときにフェニックスへ行きましたが、砂漠の町なので、当時は何もなかったです。最近、新しいスポーツ施設、スタジアム、アリーナがたくさんでき、当然のことながら、そこにフランチャイズ、ホームスタジアム、ホームアリーナにするプロチームがいっぱいいます。沖縄との産業規模を比較してみると資料にあるとおりで、GDPレベルで4兆円対10兆円

開きがありました。人口比はあまり変わりません。気候的にはプロスポーツのキャンプ地に選ばれるなど結構似ています。たまたま沖縄は市に1万人アリーナをつくろうとしています。こういうこともあるので比較しました。

- ・それで、失業率ナンバーワンの沖縄が何でこんなもの作ると思うじゃないですか。しかし、沖縄は観光産業が主たる産業になっていますから、都市戦略として当然のことながら狙っているという気はしています。
- ・一方、佐賀を考えた場合、外から来た人がどれだけ佐賀市、佐賀県にお金を消費していただけるでしょう。例えば大規模のスポーツ大会を持ってきたときに、それなりの選手が宿泊するホテルが佐賀県内にはないように思います。多分、I Fからは全部はじかれます。それで、選手たちはどこに泊まるのかというと、長崎か福岡になるでしょう。卵と鶏ではないのですが、施設を作って、そこでそれなりのコンテンツがプロデュースされて人が集まるような状況を作って、観光産業を刺激し、そこでホテル事業が刺激されるなど、5年、10年スパンで具体化していけば面白くなると思います。
- ・ただ、箱ができた人が動くのかというと動きません。当然そこでどう稼働させるかが重要になります。
- ・参考として、フェニックス市には、たった144万5,000人の市なのですが、大きな施設がたくさんあります。これでプロチームが年間して稼働し、そこで試合が無い時はコンサートとかをやり、それから、必ず数年に1回はビッグイベントがそこで開催されるとなると潤います。その差が沖縄とフェニックスの差になっています。これは一つの参考です。ただの数字の比較です。ただ、考え方は非常にわかりやすいと思っています。
- ・僕の考え方の結論で言うと、「観る」スポーツ前提の高機能整備された施設があり、それをうまく稼働させる組織と人材がいて、その人材組織が長期間の戦略に基づいてコンテンツをプロデュースしプロモートし、それが佐賀市や佐賀県の都市戦略にどうやってコミットさせていけるのかということまで考えていかないと、その機会を逸する可能性がでてくるし、面白さがでないのかという気がしています。

【坂元委員長】

- ・ありがとうございました。「観る」スポーツを考えていく上で、ビジョンの立て方、あるいは具体的なマーケティング、そういったところまで細かく説明いただきました。

【原田委員】

- ・今委員の話につけ加えますと、このアリゾナのユニバーシティ・オブ・フェニックス・スタジアムというのを運営しているのが、アリゾナスポーツ&エンターテイメントオーソリティという佐賀県でいうスポーツコミッションです。彼は何をやっているかということ、ここの運営と、あと、メジャーリーグの春のキャンプでカクタスリーグとい

う、春のキャンプに来て、そこでリーグをやっています。それも全部スポーツコミッションが中心になってトーナメントを運営して、そこで上げた収益を普通のスポーツ振興や、障害者スポーツ、そういう公共的なことに使っています。ここで稼いだお金を市民のために使っているという好循環が生まれているわけです。

- ・こういった組織を実はスポーツ庁も作ろうと、検討する委員会が始まっています。やはり誰が運営するかというのが非常に重要になります。
- ・それで、佐賀県もそうなのですが、日本の地方都市はみんな人口減少にこれから直面することになります。あるレポートによると、19歳から37歳の女性が都市からいなくなるから子供が生まれなくなって人口が減っていくのだそうです。こういう人たちをどうやって都市に引きつけるかということを考えた場合、スポーツ産業というのは非常に魅力的で、住んで楽しく、子育てにもすごくいい、何で佐賀県を離れなきゃいけないのというような状況をつくり上げることが大事になります。
- ・そのようなことから、この佐賀県の総合運動場等整備基本計画検討委員会でやるべきことは、スポーツ施設の建設ではなく、都市のアトラクションをどうつくるか、それを国体の後のレガシーとしてどう生かすか。そこが仕事かと思います。

【馬場委員】

- ・話を聞けば聞くほど、運営主体をどういうふうにデザインするかというところは、ハードの整備よりもさらに重要になってくるのであろうということを再認識しました。既に佐賀にはスポーツコミッションがあるようですが、さっきも言ったように、もっと複合スポーツ及び商業施設のような、何か求心力があるエリアを作り、そして、その地帯を経営していこうとするならば、その経営主体がプロモーションを担うことになるので、より民間発想の組織運営をせざるを得なくなると思います。
- ・スタジアム自体の管理や、新しい収益源を考えたりすることは、この空間がどうあるべきかを考えることと同じで、ほとんど平行、もしくはそっちのほうを先にデザインしていくことがすごく重要になってくるのではないかなということを改めて感じました。その主体が見えてくると、PFIにするのかPPPにするのか、そのあたりが逆に逆算で見えてくるような気がしています。

【坂元委員長】

- ・経営主体のことについて議論が及んでいます。競技場をイメージしていく上で、国際大会の話も出てきました。白井さんに聞きたいところですが、東島さん、佐賀の場合は国際大会まで視野に入れていけますか。それとも国内のトッププロリーグを考えた方がいいでしょうか。

【東島委員】

- ・現在の状況から考えると、国内のプロリーグを基準に考えていくべきと思っています。

【坂元委員長】

- ・国内のプロリーグあたりがメインになっていくと、そのあたりをイメージしながら少しデザインしていくことが大事かと思います。
- ・経営主体というものに関して、何か少し意見いただけますか。

【原田委員】

- ・お隣の長崎県は、Vファーレンの事務局の中に、3人体制で長崎スポーツコミッションを作っています。まだまだこれからということでしたが、スタジアムの指定管理者をとるなど、そういうことをやってもいいと思っています。
- ・例えば、サガン鳥栖の将来計画の中で、そういったところまで考えてもおかしくないと思います。

【竹原委員】

- ・総合型スポーツクラブはビジョンに描いていますので、ぜひともそういう機会があれば参入したいと思います。プロバスケットチームについても、私たちも参入の意思は持っていますが、資金の面とかを考えて考慮中です。
- ・スタジアム自体の話に少し戻します。ヨーロッパには、スーパーマーケットや学校などまで複合されたスタジアムが多くなっています。スタジアムを考える際に、誰が使うのかによって、そのスタジアムのコンセプトが変わってくると思います。
- ・北九州スタジアムは100億円ぐらいかけて今つくっているのですが、広島市民球場のような観客が楽しめるような席があるようなサッカースタジアムを日本でつくったら、世界でも珍しいと思います。
- ・また、誰がどうスタジアムをデザインするかによっても違ってきます。北九州スタジアムとガンバ大阪のスタジアムである吹田スタジアムとの大きな違いは、貴賓席の広さと大きさと内容です。ビジネスなので、ガンバ大阪はスポンサー席の階層を考えて作っています。北九州スタジアムはそこまで考えきれずに、どちらかと言えばそういう部屋があればいいというレベルでつけているところだと思います。そうなると、運営側にとってはお金を稼ぎにくい施設になります。誰が使うかによって、アリーナでも陸上競技場でもそうです。全てが変わってくると思います。

【坂元委員長】

- ・機能の部分だけでなく、臨場感や満足度ということでは、この急斜角のスタジアムというのはどうですか、評判がいいんですか。

【竹原委員】

- ・皆さん鳥栖のスタジアムはいいと思っています。ただし、それはもう過去の話でどんどんスタジアムも変わってきています。急斜角というのは見せる側から考えれば、ラストになります。
- ・あと、1万5,000人とか2万人ではA代表は来ないです。サッカーのA代表の試合は3万はいると思うので、それも考えて検討が必要と思います。

【馬場委員】

- ・竹原委員の話聞いて、ちょっとインスパイアされたところがあったので発言しておきます。何となくスポーツ頭になって、スポーツ施設の複合対応をイメージしていたのですが、先ほどの商業施設というお話もあつたりしたように、スポーツコンプレックスをスポーツで閉じている必要はもしかしたらなく、大型ショッピングセンターみたいなものが敷地の中に入ってもいいかもしれません。近くに誘致することでもいいです。また、保育施設が複合的にあってくれると預けて施設に行けるとか、何か今まで創造していなかった複合的な、あらゆるものを再構築する新しいタイプのスポーツコンプレックスというのがあり得るのではないかなと思いました。
- ・それを考える時にすごく重要になるのは、やはり誰が経営するかということで、行政が経営、運営するとなると、そこまで大胆なコンプレックスはつくりにくいと思います。行政をサポートしながら民間が収益性や、市民やトップアスリートが満足して快適に過ごせるかという新しい組み合わせを考えていくことによって、より市民の日常にも根づいた新しいタイプの施設ができるかなというイメージをインスパイアしました。

【坂元委員長】

- ・スポーツコミッションというセクションだけではなくて、例えば、文化レベルでのセクションにつくり変えたほうが、まだ複合的な様相が生まれるなどの意見もあるのかもしれません。

【竹原委員】

- ・スタジアムについてもう1つ。鹿島アントラーズのスタジアム、あそこは人口も少ないのですが、あそこはスタジアムにクリニックを併設していたり、アスレチッククラブがあつたりと、スタジアムの指定管理者がどんどん仕掛けて売上を上げているというのを聞いています。
- ・スタジアムは老朽化の問題も含め、20年後どうなっているのかということも考えながら、コストはかかってくるのかもしれませんが、毎日使えるようなことを考えていくとみんなが使えるものになると思います。県民があそこに月に1回は行こうという場

になっていけば、佐賀県いいなと言われると思います。

【今委員】

- ・現状立地が最適ではないかという話が出たような記憶があります。今の話を聞いていると、本当にそれでいいのかという気はします。私は前回初めて、駅から競技場まで歩いて行ってみたのですが、少し遠いと感じました。あそこが「する」スポーツの拠点ということであれば、全く問題ないと思いますが、「観る」スポーツを考えるとちょっとアクセスを考えた方がいいと思います。さっき話をした事例もそうなのですが、欧米のスポーツ施設は平気で街中にドーンとあるのが普通です。あえて僻地には当然作りません。場所については、都市戦略とのすり合わせも含めて考えていかなければ、結果的に「観る」と「する」の境界線が曖昧になる気がします。

【坂元委員長】

- ・「観る」スポーツのことを考えて、例えば、空港のあたりやインターのあたりまで考える必要があるということでしょうか。

【今委員】

- ・私は佐賀県のことあまり知りません。そういう上で申し上げます。佐賀駅を中心に考えるべきなのか、それとも広域に広げて、福岡、大分、長崎、熊本から客を引っ張ってくるとしたらどうなのかとか、そういった考え方が必要だと思っています。

【坂元委員長】

- ・先ほど、今委員から提案がありました、「関わる」スポーツ、このあたり、少し決着をつけておきましょう。「支える」スポーツよりも、「関わる」スポーツのほうがもっと広範なイメージができるということですけど、いかがですか、皆さん。
- ・実は国体の基本構想作成委員会の時に、とにかく全く関係のない人たちをぜひ関わらせたいということで、まず、委員の方がTシャツを作ってもらいました。これは某大学の美術の女の子に作ってもらったそうです。理系女子みたいな人たちにも国体に関わってもらいたいというようなことも言われていました。まさしく、これは「支える」という概念じゃなくて、「関わる」という概念かなと思います。
- ・あるいは、例えばボランティア以外ではホームステイも恐らくは関わるのかもしれませんが。そういう意味では非常にいいことだと思います。ただ、定着している言葉が「支える」なんですよね。

【今委員】

- ・補足いたしますと、例えば、関わるというニュアンスで言うと、産学連携というの、1つの関わりだと思います。大学の研究機関がスポーツに関わってくるということが多少あるとすると、それも関わりです。それから、当然、企業とか、アマチュアスポーツも関わりだと思っています。
- ・あとは、一般市民の関わり、これはボランティアとかではなくて、政策的な部分で色々あると思います。そういったことを考えると、非常に広範囲になるので、これは定義する必要はないと思います。スポーツに接触する人たちは、全てカウントするような感覚でいいと思います。

【坂元委員長】

- ・原田委員、スポーツツーリズムの観点から、こういう「支える」スポーツと「関わる」スポーツ、このあたりは流通している言葉でしょうか。

【原田委員】

- ・「関わる」という言葉は、固有名詞としてはあまり使われていませんが、実際、今、マラソンやファンランだけで2,000大会ぐらい開かれていたり、トライアスロン大会が300開かれているなど、スポーツに参加する人や関与してボランティアで大会を運営したりする人が非常に増えています。それをスポーツツーリズムという言葉でふわっとラッピングすると、非常に多くの方がスポーツに関わっていることは事実です。
- ・このように増えたのは東京マラソン以降です。ランニングイベントの増加を見ても、その数は急速に増えています。
- ・あとは、興味深いのは、インバウンドが増えつつあるということです。竹原さんに聞くと、ヴィッセル神戸の試合にくる外国人が増えたそうです。神戸に来た外国人が夜のレジャーでサッカーを観に来るそうです。そういう行動形態も出ているので、今は佐賀に来るインバウンドはまだ少ないのかもしれませんが。例えば、水戸はグエン・コン・フオンというベトナムの有名選手を獲得したら、いきなりLCCのチャーター便が水戸に飛んでくるようになったようです。そういう時代なので、何かインバウンドも視野に入れながら、国際交流、さらに佐賀の新しいスポーツの風景をつくっていくというのも1つの方向性かとは思いますが。

【坂元委員長】

- ・そのあたりを含めて、次回までにこの言葉を生かすかどうか、事務局でご検討ください。
- ・より具体的になってきたので、例えば、現存する総合体育館、あるいは、これから検討していこうとしている「観る」スポーツに極力特化していくような新しいアリーナ、このあたりについて少し具体的な要望が反映された形で、次回の会議を迎えたいので

すが、いかがですか。

- ・スタジアムの観客席というところで、竹原さんから提案をいただきました。あと、屋内施設についてご意見ありませんか。

【原田委員】

- ・東京の中野サンプラザの建て替えプロジェクトというのが始まっていて、今、基本計画に入っています。複合商業施設というのが基本であるのですが、その目玉が1万人収容のアリーナになっています。どんなアリーナにするかで、今検討しているようですが、恐らくスポーツだけじゃだめだということで、何か先祖返りみたいに、ステージや観客席のついたアリーナみたいなもので、エンターテインメントを主流にしようとか、あとはドローンの選手権をやろうとか、クールジャパン的に、アニメとか、そういった漫画をコンテンツにしたものを入れようとか、非常に自由な発想で中野区は考えています。人口32万人ぐらいの巨大な区ですけども、そういった動きも出ているので、そういった情報も取り入れながら、普通の体育館ではない、普通のアリーナではないような、本当に多目的に使えるような、ぜひ、久光さんがここでないと嫌だと言うぐらいのすごいアリーナをつくるというのも大事かなと思います。

【坂元委員長】

- ・議事録に入れておきます。

【馬場委員】

- ・今、イベントマーケットがどういうふうに移しているか、ディテールはちょっとわからないのですが、福岡のコンサートホールなんかは、ちょっと飽和ぎみなようです。圧倒的にコンサート系は福岡に集中していると思うのですが、そのマーケットに入り切れないものを丁寧に誘致するという戦略はあるのではないかと思います。もちろん精査はしなければいけないと思いますが、エンターテインメントにも触れる素養を空間的、施設的に残しておくというのも1つの手かなというふうに思います。

【坂元委員長】

- ・例えば、カフェとか、レストランとか、それ以外に際立った何かということですか。
- ・その他の仕掛けというのは必要ですか。

【馬場委員】

- ・音響であるとかは、精度によってアーティストが来やすいかはあると思います。かといって、過剰な設備が要るとは思えないです。周辺環境を含めて、どれぐらい音が漏れていいのかみたいなのも含めて総合的な検証があることによって、スポーツア

ンドエンターテイメントの集客が見込める施設になって、経営がぐっと楽になるんじゃないかなと思います。

- ・まずは、興業界にしっかり仕掛けていけば、福岡から 40 分なので、それなりの競争力はあると思います。

【今委員】

- ・さきほど、先生がおっしゃったレストランの話ですが、既存の施設でもレストランや売店がありますが、みんなそこで食べておいしいですか？施設の中にあるレストランは人が余り来ないので質が落ちることが多いです。もし、そういう附带施設をつくるのであれば、日常的なアクセスがあるかないかだけでも随分違います。そうしないと、レストラン作っても利用は少なくなってしまうと思います。
- ・客席もそうです。5,000 席あれば経営が成り立つかという、そんなことはないです。ビックネームのコンサートを呼んで、既存座席が 8,000 席から 10,000 席ないともうわかりません。コンサートが呼べるようにすれば使用料をたくさんもらえることにもなります。
- ・だから、そこまで考えて、まず何をやるか、佐賀県としてのビジョンとして、「する」スポーツ、「観る」スポーツだけではなくて、そこからもう少しブレイクダウンして、何をするのか、国体以降どう活用していくのかという具体像を作ることが重要になります。
- ・例えば、アメリカのユージーンというオレゴン州の田舎町に陸上競技場があって、そこに仮設を万単位でつくって世界陸上をやっています。ここは、ナイキの創始者が走っていたトラックで、陸上競技のメッカです。ここは競技環境としては抜群だが、スタンド席は1万人とか1万5千人レベル。通常、何をやっているのかといたら、年1回、ダイヤモンドリーグといって、陸上界のトップ大会が必ずあります。そういうメッカにするという考え方もある。そうなると、日本リーグレベルではなくなってしまう。
- ・だから、国際大会というのは考え方がいろいろあると思います。この考え方は、捨てるのか、死ぬ気で生かすのか。10年間のスパンでスポーツ政策を考えて、日本の競技団体を全て網羅して持ってくるぞという行動を起こすか起こさないかだけでも全然違います。

【坂元委員長】

- ・局長、私はこれ以上のことは申し上げませんので、次回、ぜひ検討ください。
- ・今委員の話を知ると 5,000 人ぐらいではいけないようです。

【今委員】

- ・いいえ、5,000人でもいいです。使い方によっては3,000人で十分かもしれません。

【坂元委員長】

- ・前回示した資料でもありましたように、今回、防災拠点という言葉が出ている割には、競技場が冠水しているという状況があります。事務方の方いかがですか。
- ・また、アクセスの意見もかなり出ました。インター方向から競技場へ入りにくいという意見もありました。都市計画課、河川砂防課、下水道課あたりで情報提供をお願いします。

【都市計画課】

- ・委員長のほうから話がありました陸上競技場の前の道路の件についてです。都市計画施設として都市計画道路にもなっております。今、どういうふうにアクセスをよくするかというところを検討し始めているというところです。
- ・陸上競技場の施設の整備のやり方によって道路のつくり方も変わってきますので、こちらの計画と連携をとりながらやっていきたいと考えています。
- ・アクセスを考えた場合、高速道路からは自家用車のアクセスです。これとは別に、先ほど駅からのアクセスの話もあったのですが、駅から陸上競技場までのアクセス向上のため、バスとかの誘導等についても都市計画課と佐賀市とが一緒になって、考えていきたいと思っています。

【原田委員】

- ・質問ですが、総合運動場の土地利用区分というのはどうなっていますか？商業行為は認められているのでしょうか。

【都市計画課】

- ・今は公園区域になっております。ただ、県有施設でありますけれども、用途等もあるかと思しますので、その辺は施設の利用の仕方によって都市計画課のほうでも対応できる分については佐賀市と一緒に考えていきたいと思えます。

【河川砂防課】

- ・先ほど話のありました総合グラウンド周辺の冠水に関して、佐賀市内は非常に低平地になっていまして、最終的にはこの辺の雨は河口の有明海に流れていく形になるんですが、これが干満の差とか潮位の高い時に排水しにくくなるような地形の特性があります。
- ・現在、こういった佐賀市内の排水対策につきましては、佐賀市が中心になって排水対策を総合的に取り組まれております。その中で、またこういった施設周辺の排水対策

をあわせて、連携して取り組むところが出てくるのではないかと考えています。

【坂元委員長】

- ・あのエリアは地下駐車場をつくれる見込みはあるのですか？

【河川砂防課】

- ・そこは施設が佐賀市さんと連携をしていくことになるのですが、まず、下流の水路だとか、今ある施設の有効な活用という面で排水対策としては取り組まれています。あとはその中でこういう施設とどう連携していくのかというのが、周りの影響も含めて連携していくことが大事ではないかと考えているところです。

【坂元委員長】

- ・福岡あたりは大学と共同して、洪水で発生した水を一時的に大学の施設の下にためるようなことをやっています。そういうあたりまで踏み込んでできればいいです。例えば、一時的にグラウンドの下のほうに集めてしまえば、ひょっとしたら屋外施設も一般の競技施設よりも数度気温が低い状態で競技を実施できたりする可能性も見えてきますが、そういうようなところも何か検討していただけたらなという気はします。
- ・ただ、駐車場のほうが少し目途が立ち始めております。北側のほうにその用地を買収する計画も立てられていると聞いております。そのことも含めまして、アリーナの構想がぐっと現実味を増す段階に来ているところです。
- ・メインになる施設について検討を進めておりますけど、他にプールはどうだとか、まだまだ施設の問題点を残しているところがあります。実は屋内施設に関しても、県有の市村記念体育館というのがございます。ここについても、どこかで議論をしなければいけないと思っています。これを今後どう活用していくかというのが少し悩ましいところでもあります。

【原田委員】

- ・一つだけ意見ですが、堺市に J-REEN というサッカー場が十数面ある、非常に利用率の高い施設があります。ここは、ナショナルトレセンにも認定されています。あそこに新たに大阪府のサッカー協会が2面、人工芝をつくって、合宿所を建てました。それで、施設が回るようになって、その2面と合宿所で収益を上げ始めて、それが大阪府サッカー協会の収入になっているようです。
- ・そういうことを考えると、合宿所をうまく使うと収益になると思うのですが、合宿所は考えていますか？

【スポーツ課】

- ・合宿所につきましては、今のところ具体的には設ける、設けない、そういった検討もまだ進んでおりません。今後、スポーツ合宿等の誘致をするに当たりまして、やはり合宿施設が足りないということもあろうかと思っておりますので、合宿所を設置するかしないか、どういうものを設置するのか、そういったことについても今後の議論の中で検討していきたいと考えているところです。

【竹原委員】

- ・ある市において、廃校で合宿ビジネスをしようとしており、最近も勉強会がありました。私たちも参加させてもらったのですが、その中で話しにあったのですが、東京では老朽化した施設にフットサルコートを作って、合宿ビジネスをやっているそうです。サッカーが一番人口が多く、最もビジネスとして成り立ちやすいと言っていたので、そのようなビジネスを廃校あたりでしていきたいと考えています。

【今委員】

- ・資料の中で、全国規模の大会を開催したいという話がありました。例えば、仮に春高バレーや、年末のバスケットのインターカップあたりを開催するとすると、男女 100 チームはあるのですが、選手たちが宿泊するホテルは佐賀にありますか？

【坂元委員長】

- ・19 総体の時は、佐賀だけでなく、福岡にも協力をしてもらいながらやりました。

【東島委員】

- ・インターカップをやる場合は、コートは8面以上要ることになるのですかね。東京体育館だけでも賄いきれない規模でないでしょうか。

【今委員】

- ・バレーボール、バスケットは東京体育館 1 館で集約して開催しています。ただ、マックスで来るチーム数は 100 を下りません。それは、応援団は考えなくてもです。

【東島委員】

- ・ただ、バスケットの会場は補助競技場を合わせて 5 面だったのではなかったでしょうか。

【今委員】

- ・4 面になります。

【東島委員】

- ・今の佐賀県の総合体育館だと、どうしても3面しかとれません。

【今委員】

- ・現状はですね。現状の話ではなく、この計画の中にはどの規模を考えていくのかということ。全国規模といいながら、そういう規模のものを持ってくると、それだけの人が動くので、当然お金も動くし、お金も落ちます。ただ、それだけの宿泊環境が佐賀市内にはないと思いますので、同時並行で宿泊施設なども考慮していかないといけないと思います。

【原田委員】

- ・さいたま市にもスポーツコミッションがありますが、市長の悩みは宿泊施設がないことです。だから、今はホテルを誘致するのに必至になっています。
- ・佐賀県佐賀市の場合、どこに未来需要予測を置くかになります。現状だと、多分発展はないと思います。だから、やはりそこは精密な予測を立てながら必要なものは作らないとだめだと思います。宿泊施設が一番経済効果を呼びますから、それを他のところを取られてしまうと、佐賀市の経済損失というのは物すごく大きくなります。
- ・合宿所にしても、作れるものならば作られた方がいいですし、せっかく人工芝のサッカー場が2面あるのであれば、それに合宿所があると、堺市の事例のように、合宿が非常に回り出すと思います。そこにサガン鳥栖のコーチが来て指導するなどすると非常にいい形に動く可能性があります。ぜひ、宿泊施設ということもこのスポーツ施設と対に考えていただきたいというのが私の要望です。

【坂元委員長】

- ・九州大会レベルであればアクセスが良く動きやすいということもあって、何とかそのレベルは開催できてはいます。学会あたりでも、佐賀市内で開催すると、ほぼ日帰りで参加するのですが、嬉野に会場を移しただけで宿泊客がどっと増えるなど、そういう非常に面白い特徴を持っておりますので、近隣都市とタイアップすることも必要になると思います。
- ・今回のこの会議で、全国規模をにらんだレイアウトを作っていくということであれば、旅館組合とももっとタイアップしていく必要があると感じています。

【東島委員】

- ・今の合宿所の話に絡むのですが、競技力向上を考えた時、佐賀県からは毎年60名から70名の中学生が県外に出ていっています。そういった人材が県外に出ないようなことを考えなければいけないだろうと思います。また、佐賀工業のように東京から選手が

入ってくるケースもあります。このようなことから、国体の競技力向上委員会の中ではアスリートビレッジを作れないかという意見も出ました。そして、佐賀で3年ないし6年育て、やっぱり佐賀はよかったと将来の宣伝にもなればいいんじゃないかという考え方もあります。ちょうど合宿所という話がぽつと出たのでご紹介しておきます。

【坂元委員長】

- ・その考えも新しいアリーナの中に構想として盛り込んだほうがいいのでしょうか。

【東島委員】

- ・もしそういうことが考えられるのであれば盛り込んで欲しいです。そうすると、佐賀市にしろ、鳥栖にしろ、武雄にしろ、佐賀市周辺なら色々な動きができるし、練習もできるし、トレーニングもできるという意見がありました。

【今委員】

- ・いい話のついでですが、1つ気をつけてください。先ほどの話はナショナルトレーニングセンターの話がベースの、育成のレベルの話になります。そうすると、「する」スポーツの話ではないです。
- ・そこがぶれるとまずいので、それはぶらさないでください。新アリーナの中にそういう合宿所を作ることは物理的には可能ですが、実際にどうやって目的の整合性を保てるのでしょうか。事実、浜松アリーナはそうやってありますが、ムダになっています。

【坂元委員長】

- ・トップアスリートに、夢を持たせるという意味では、トッププロを間近に見ることができる環境を整えるという意味で発言されたと思います。

【今委員】

- ・そうであれば、その人物のスキルに対して、練習環境が抜群に機能的でなければ、やる意味がないです。
- ・結果的に、「する」スポーツを特化した部分でそれが生かされないと面白くなくなります。そうすると、「する」なの、「観る」なのか、どちらなのとなってしまいます。

【坂元委員長】

- ・要するに、実動は総合体育館のほうに動いてもらうという感じがいいようです。そのあたりもまた詰めていく必要があるんでしょう。新しい意見としてぜひ反映させていければと思います。

【小早川委員】

- ・先ほど国体の宿泊場所の話が出たので、過去の事例として言っておきます。山口国体は宿泊施設があまりない大会でした。それで、結局は国体選手が家に分かれて泊まる民泊になりました。
- ・宿泊施設はお金を生むし、いいことだと思いますが、その先のビジョンにしっかりしたプランがないと、結局、一時的に宿泊施設が大きく増えるだけになり、色々と問題も起きるので、そういうところも腹案として持ってもいいのかなと思います。
- ・また、北部九州の国体が数年前あったのですが、その時にバレーが2会場で開催されました。真夏に、1つは冷房のきく会場で行われて、1つは冷房のない会場で行われました。最終的にはその2つから勝ち上がってきたチームが戦うのですが、冷房のないところでやったチームはふらふらになっていました。そういう環境の違いがあると戦いにくいなというのもあるので、その辺もしっかり踏まえた上で検討したほうがいいと思います。

【今委員】

- ・ちなみに、埼玉国体のときは JTB さんが民泊せざるを得ないと決めたら、ほとんどのチームが東京へ逃げてしまいました。

【坂元委員長】

- ・ビジョンをつくりながら、そして数値目標をあわせて作っていきながらやっていけば、旅館組合などもくどいていけるのかなという気がします。ちょっと長期的なビジョンを具体的に持ちながら計画が練っていければと思います。
- ・それでは、最後に、東島さんが様々なレベルの競技者のことまでご存じだと思いますので、例えば、特に彼らが欲しているものとか、サービスとか、そういうものが何かあるようでしたら教えてください。

【東島委員】

- ・先ほど話をしましたように、客席数が 5,000 席以上のアリーナとか、それから、やっぱり卓球であれ、バドミントンであれ、面数を十分に備えてくださいと言われてます。それから、駐車場をもっと整備して欲しいです。
- ・加えて、前回話をしたように、体育館の控室などの諸室などが不足していますので、その環境を改善して欲しいという意見が多くあっています。

【坂元委員長】

- ・それでは、最後に藤井さん、いかがですか。また何か補足したいことがあったら願

いします。

【藤井委員】

- ・ 障害者に対しては以前から話をしているとおりです。段差のないフラットな、いわゆるバリアフリーと言われているようなことが整備されていることが基本であります。
- ・ 東島委員がおっしゃったように、陸上競技場にしても、プールにしても、どれでもそういう附帯の部屋が必要に思います。今、どの施設を見ても、全国大会レベルの競技会とかいうのはちょっと厳しいと思います。
- ・ 障害者の全国大会にはよく行くのですが、国際大会ができるような、例えば長水路のプールだったら、大きなプールを使ってやるのが当たり前にはなっています。
- ・ 障害者だからというのは特にないと思います。普通の、一般の競技と変わらない施設の規模でやっているというのが現状です。

【坂元委員長】

- ・ 何かこれだけという意見があればお願いします。どのあたりまで掘り下げていくのか、探りながら進んでいる段階ではありますが、何とか3回目の会議につなげていきたいと思います。
- ・ 意見がないようであれば、今回の議論は閉じさせていただきたいと思います。
- ・ 御協力ありがとうございました。
- ・ 事務局から何か連絡ありますか。

【事務局】

- ・ 第3回目の会議は8月の下旬、もしくは9月の上旬で皆さんの日程を合わせながら調整したいと思っております。

【白井局長】

- ・ 本日は、長時間にわたり御議論いただきましてありがとうございます。最初の2回は色々な御意見をどんどん出してもらうために費やしたという形にしました。こういった御意見をもとに、またさらに整理をしていきながら、第3回目、また議論のネタをきちんと整理していきたいと思います。また、よろしく願いいたします。
- ・ 出てきた意見の中で、スポーツ施設の建設だけでなく、都市機能をどのように付加していくのかとか、あるいは運営主体についてもきちんと検討していくべきではないかとか、スポーツ産業を育てていくという意味でどうあるべきだとか、いろんな御意見をいただきました。そういったことも一生懸命また考えていきたいと思います。
- ・ 一方で、県民がつくる施設なので、安心して身を委ねていくような、そういったものにしていきたい。県民が安心でき、あるいは満足できるような施設と、そのスポーツ

の施設がいかに調和していくのかというようなことも大事にしたいというような御意見もありました。その辺もあると思います。これからマーケティングの調査をしたり、あるいは希望、意向をいろいろ聞いたりする中でも、そういった声も尊重しながら取り組んでいくようにしたいと思います。

- ・本日はどうもありがとうございました。

【事務局】

- ・それでは、以上をもちまして第2回佐賀県総合運動場等整備基本計画検討委員会を閉会いたします。
- ・本日はありがとうございました。